

出題年度：2024 年度

<問 2>

【出題意図】

1. 異文化理解力の育成

異なる言語的背景を持つ人々との接触が増える現代社会において、多文化共生に必要な視点を養う。

2. 無意識の偏見への気づき

日常的な表現や行動の中に潜む無意識の偏見や差別構造に気づき、改善策を考える契機とする。

3. 論理的思考力の促進

提示された文章から論点を抽出し、自身の意見を明確に述べる力を養う。

4. 文章構成力の向上

制限字数内で一貫性のある主張と適切な構成を持った文章を作成する能力を評価する。

【模範解答（要点）】

題名：「多様性の時代に求められる言葉のあり方」

- ・日本語以外を第一言語とする人々が増える中、日本語を「褒める」行為の背景には、無意識の偏見や違和感が潜んでいる場合がある。
- ・日本語の習得を褒めることは、相手を評価する意図がなくとも「他者」として扱っていると捉えられるリスクがある。
- ・日本語を使用する人との対話では、相手を一人の対等なコミュニケーションのパートナーとして尊重する姿勢が重要である。
- ・日本語の細かな間違いにこだわらず、内容や意図に注目し、誠実に向き合うことが多文化共生の基盤となる。
- ・言語的背景が異なる人々と接するとき、評価や指導ではなく、自然な会話を通じた理解と感謝が重要である。
- ・この姿勢は多様性を受け入れる社会における新しいコミュニケーションの在り方を示している。